

第 8 1 回 地区内中小企業景気動向調査結果

(平成 21 年 1～3 月期実績・平成 21 年 4～6 月期見通し)

1. 調 査 時 点 平成 21 年 3 月 2 日～3 月 6 日

2. 調査対象企業数 181 社中回答 181 社 回答率 100.0%

区 分	調査対象企業の範囲	調査対象企業数	有効回答数	有効回答率(%)
製 造 業	従業員 300 人以下	41	41	100.0
建 設 業	"	46	46	100.0
卸 売 業	従業員 100 人以下	8	8	100.0
小 売 業	従業員 50 人以下	55	55	100.0
サ ー ビ ス 業	"	31	31	100.0
合 計		181	181	100.0

3. 調 査 方 法

当金庫調査員の面接聞き取りによる感触調査です。

調査対象企業は、当金庫の営業区域(新冠町～広尾町)内に所在する企業とし、その抽出は、各業種・規模等の基本属性の構成が、調査対象母集団の属性に見合う一定基準に基づいて有意抽出で行っています。

4. 分 析 方 法

各質問項目で「増加(上昇)」したと回答した企業の全体に占める構成比と、「減少(下降)」したと回答した企業の全体に占める構成比との差(判断指数・D I 値)を中心に分析を行っています。

なお、同時に信金中央金庫総合研究所が行う、全国調査結果と地区内との比較分析を行っています。

5. お問い合わせ先

日高信用金庫 経営統轄本部調査課(.0146 - 22 - 4116、内線 213)

〒057-0013 浦河郡浦河町大通 2 丁目 31 番地 2

全業種総合 181 企業（回答率 100.0%）の調査結果です

□ 概 況

今期（平成21年1～3月期）の業況判断D I値は 59.7 と、前期（平成20年10～12月期）比悪化し25.4ポイント低下、過去10年間の中で平成19年1～3月期に次ぎ3番目に低い水準となった。業種別にみると、D I値は5業種全てで前期のマイナス値が拡大し、製造業、建設業が過去10年間の中で最も低い水準となったほか、卸売業が3番目に低い水準となった。小売業、サービス業は前期比悪化を示す一方、前年同期との比較で改善がみられる。

売上額、収益判断D I値は、売上額が 61.3(前期 19.3)、収益が 23.2(前期 16.0)と、前期比マイナス値が拡大し悪化、それぞれ42.0、7.2ポイント低下した。

来期（平成 21 年 4～6 月期）の予想業況判断 D I 値は 44.2 と、今期（ 59.7 ）実績比 15.5 ポイントの改善を見通しているが、過去 10 年間の同期の中で平成 18 年に次ぎ 4 番目に低い水準にとどまっている。

【業種別天気図】

業種	時期	地 区 内				北 海 道	全 国
	20年 7～9月	20年 10～12月	21年 1～3月	21年 4～6月見通し	当 期	当 期	
総 合							
製 造 業							
建 設 業							
卸 売 業							
小 売 業							
サ ー ビ ス 業							

好調 ←

→ 低調

この天気図は、景気指標を総合判断して作成したものです。

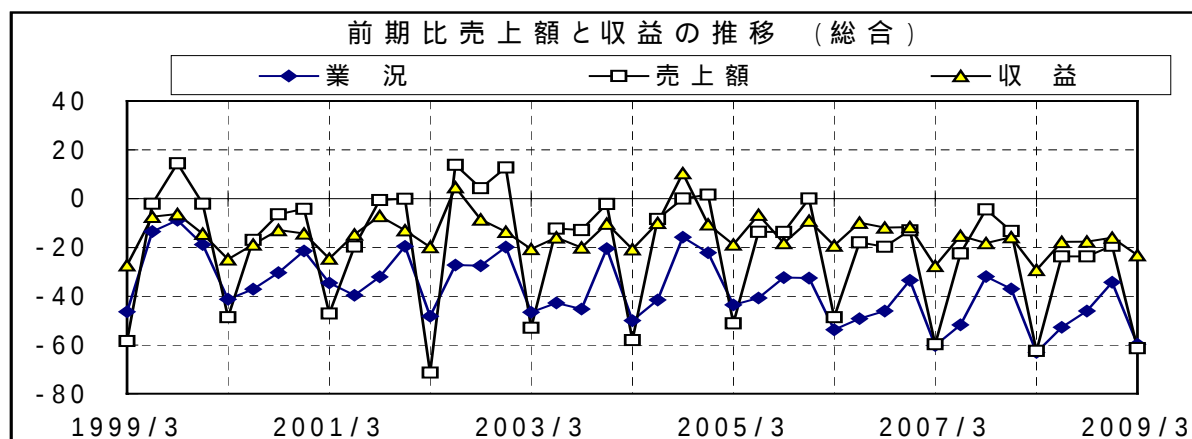
□ 景 況

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
業 況	-46.1	-34.3	-59.7	-44.2
売上額	-23.7	-19.3	-61.3	-20.5
収 益	-17.6	-16.0	-23.2	-29.8

全業種総合の今期の業況判断DI値は 59.7 と、前期比悪化し 25.4 ポイント低下、過去 10 年間で平成 19 年 1～3 月期に次ぎ 3 番目に低い水準となった。地区別にみると、全地区で悪化している。

売上額、収益判断DI値は、売上額が 61.3、収益が 23.2 と、前期比マイナス値が拡大し悪化、それぞれ

42.0、7.2 ポイント低下した。

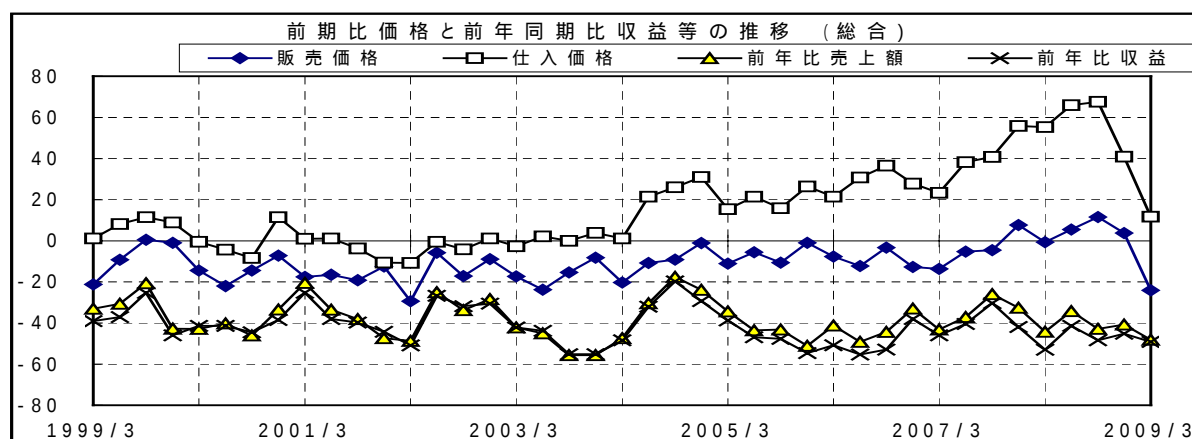


□ 価格面、前年同期に比した動き

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
販売価格	11.6	3.7	-24.1	-13.3
仕入価格	67.6	40.9	11.7	6.1

販売価格判断DI値(24.1)は、前期比プラス値からマイナス値に転じ 27.8 ポイント低下、価格低下基調を強めている。一方、仕入価格判断DI値(11.7)は、前期比プラス値が縮小し 29.2 ポイント低下、価格上昇基調を弱めている。業種別にみると、販売、仕入価格判断DI値はサービス業で販売価格判断DI値が横ばいとなった以外

全業種で低下している。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
残業時間	-12.7	-7.2	-21.0	-12.8
人手状況	4.4	-1.1	11.7	6.7

残業時間判断DI値は 21.0 と、残業時間が減少したとする企業割合が増加し、前期比 13.8 ポイント低下した。

人手過不足判断DI値は 11.7 と、前期比マイナス値からプラス値に転じ 12.8 ポイント上昇、人手過剰感を強めている。

□ 設備投資の動き

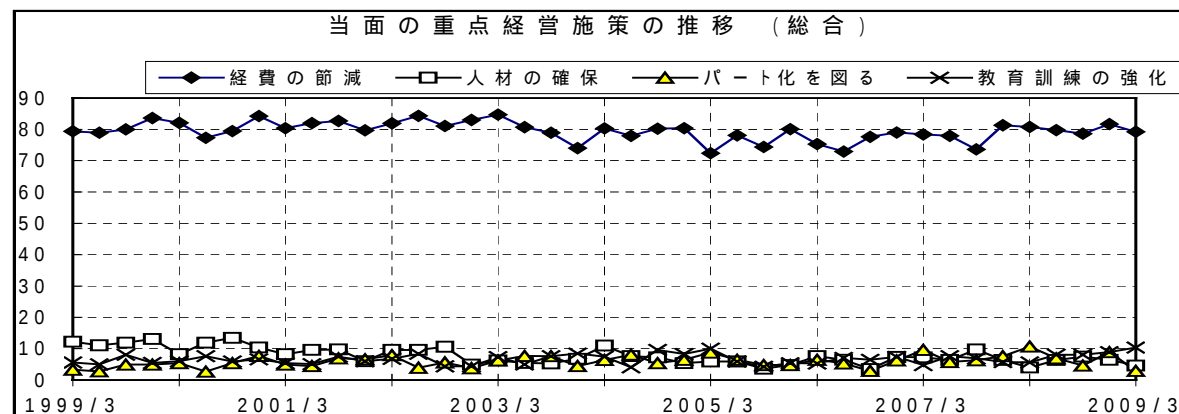
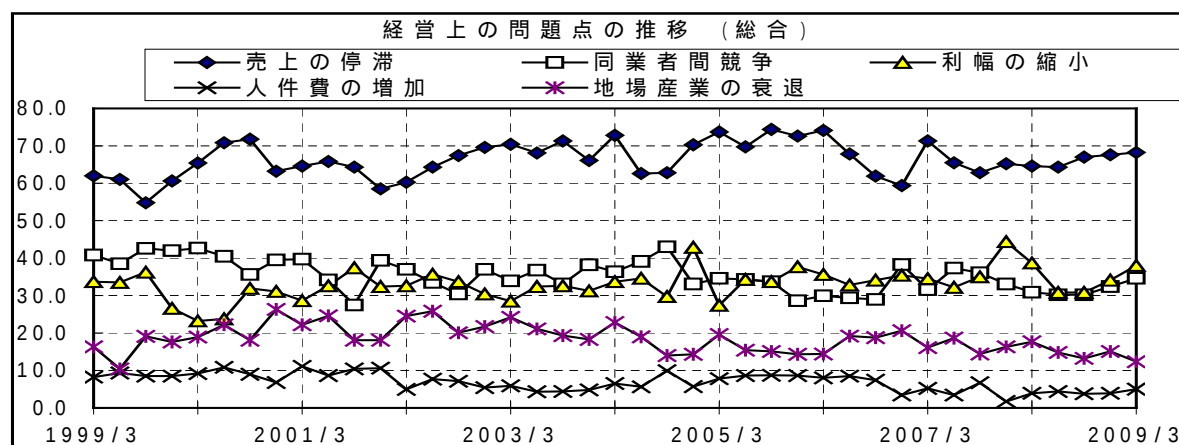
設備投資の充足感を示すD I値は 5.5 と、前期(10.5)からマイナス値が5.0ポイント縮小し不足感が弱まる一方、適正と回答した企業は81.1%と、前期(81.7%)から0.6ポイント低下した。

設備投資実施企業割合は13.8%と、前期(12.7%)比1.1ポイント上昇し、件数で前期の23社に対し25社の実施となった。また、来期予定では当期比3社減の22社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」が68.2%で最も多く、次いで「利幅の縮小」38.0%、「同業者間の競争」34.6%、「地場産業の衰退」12.3%の順に続き、前期との比較では「利幅の縮小」と回答する企業が多くなっている。業種別にみると、全業種で「売上の停滞」をトップに挙げ、浦河、静内地区で70%を超える割合となっている。

重点経営施策では、「経費の節減」が79.2%で突出し全業種でトップに挙げている。地区別にみると、「経費の節減」が全地区で68.0%～92.0%の割合を占め、静内地区は92.0%で最も高くなっている。



□ 来期の見通し

来期(21年4～6月期)の予想業績判断D I値は 44.2 と、今期(59.7)実績比 15.5ポイントの改善を見通しているが、過去10年間の同期の中で平成18年に次ぎ4番目に低い水準にとどまっている。

予想売上額、予想収益判断D I値は、売上額が 20.5(今期 61.3)と、マイナス値が縮小し今期実績比 40.8ポイントの上昇見通しにある一方、収益は 29.8(今期 23.2)と、マイナス値が拡大し今期実績比6.6ポイントの低下見通しとなっている。

予想販売、予想仕入価格判断D I値は、販売価格が 13.3(今期 24.1)と、今期実績比マイナス値が縮小し 10.8ポイント上昇、価格低下基調が弱まる一方、仕入価格は 6.1(今期 11.7)と、今期実績比プラス値が縮小し 5.6ポイント低下、価格上昇基調が弱まる見通しとなっている。

製 造 業 41 企 業 (回 答 率 100.0%) の 調 査 結 果 で す

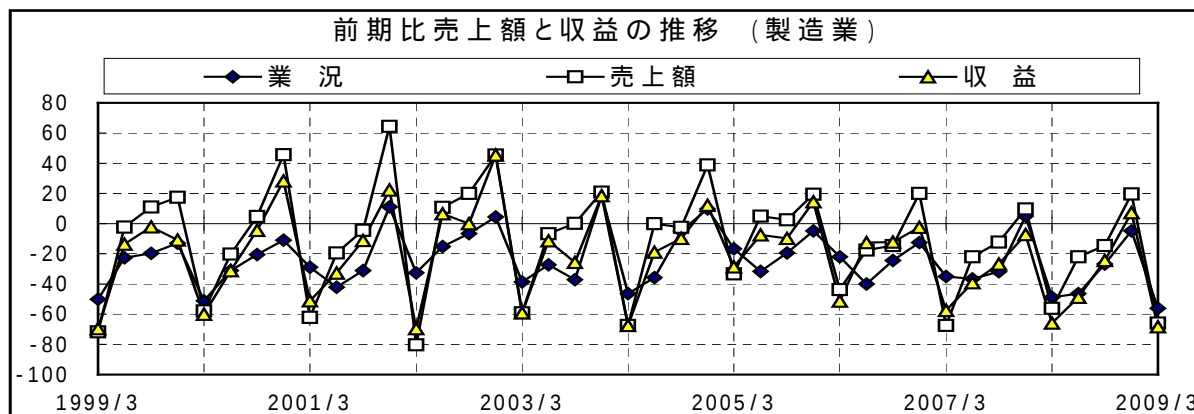
□ 景 況

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
業 況	-26.8	-4.8	-56.1	-51.2
売上額	-14.6	19.6	-65.9	-2.5
収 益	-24.5	7.3	-68.3	-26.9

今期の業況判断DI値は 56.1 と、前期比大幅に悪化し51.3ポイント低下、過去10年間の中で最も低い水準となった。地区別にみると、えりも地区で横ばいとなった以外全地区で悪化している。

売上額、収益判断DI値は、売上額が 65.9、収益が 68.3 と、前期比プラス値からマイナス値に転じ大幅

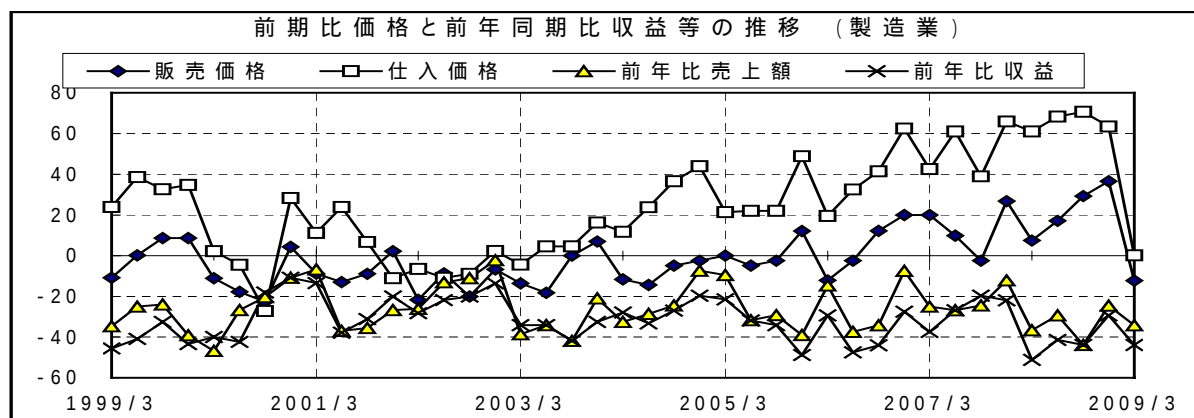
に悪化、それぞれ85.5、75.6ポイント低下した。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
販売価格	29.3	36.6	-12.2	-14.6
仕入価格	70.7	63.4	0.1	-5.0

販売価格判断DI値（12.2）は、前期比プラス値からマイナス値に転じ48.8ポイント低下、価格低下基調を強めている。一方、仕入価格判断DI値（0.1）は、前期比プラス値が大幅に縮小し63.3ポイント低下、価格上昇基調を弱めている。業種別にみると、販売、仕入価格判断DI値は、食品、木材とともに低下している。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
残業時間	-24.4	0.1	-26.9	-12.2
人手状況	4.9	-14.6	9.8	7.3

残業時間判断DI値は 26.9 と、残業時間が減少したとする企業割合が増加し、前期比27.0ポイント低下した。

人手過不足判断DI値は9.8と、前期比マイナス値からプラス値に転じ24.4ポイント上昇、人手過剰感を強めている。

□ 設備投資の動き

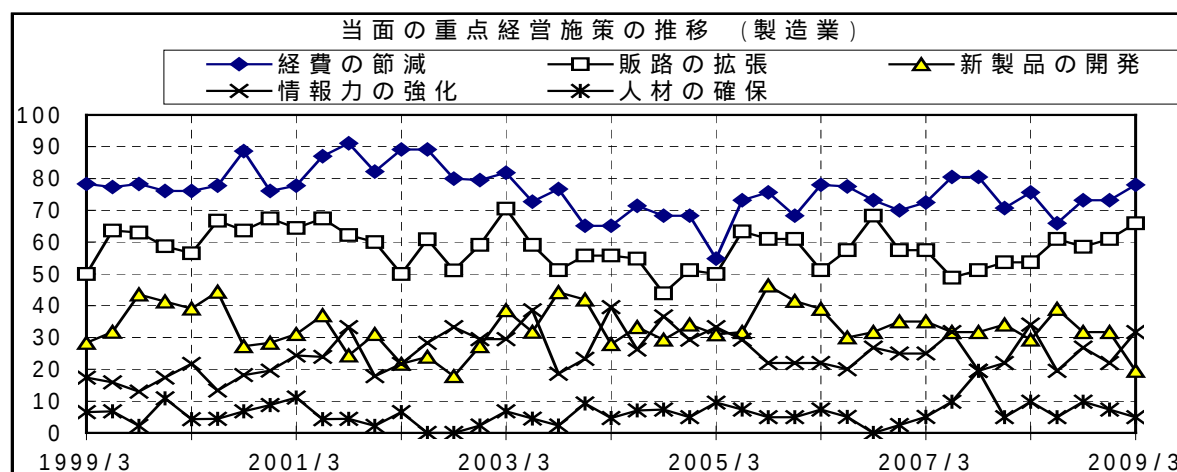
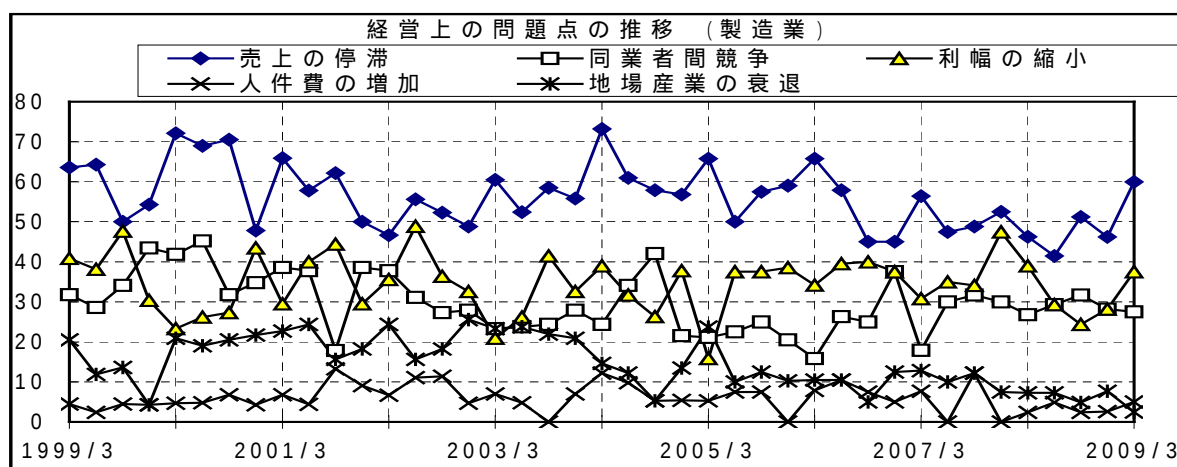
設備投資の充足感を示すD I値は 7.3 と、前期 (14.6) からマイナス値が7.3 ポイント縮小し不足感が弱まる一方、適正と回答した企業は82.9%と、前期 (80.6%) から2.3 ポイント上昇した。

設備投資実施企業割合は17.1%と、前期 (19.5%) 比2.4 ポイント低下し、件数で前期の8社に対し7社の実施となった。また、来期予定では当期比1社減の6社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」をトップに挙げ60.0%、次いで「利幅の縮小」37.5%、「原材料高」35.0%、「同業者間との競争」27.5%の順に続き、前期との比較では「売上の停滞」、「利幅の縮小」と回答する企業が多くなっている。業種別にみると、食品、木材ともに「売上の停滞」をトップに挙げている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ 78.0%、次いで「販路を広げる」65.9%、「情報力の強化」31.7%、「新製品の開発」、「提携先を見つける」19.5%の順となっている。業種別にみると、食品が「経費の節減」、木材が「経費の節減」、「情報力の強化」、「新製品の開発」をトップに挙げている。



□ 来期の見通し

来期 (21 年4~6 月期) の予想業況判断D I値は 51.2 と、今期 (56.1) 実績比4.9 ポイントの改善見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断D I値は、売上額が 2.5 (今期 65.9)、収益が 26.9 (今期 68.3) と、それぞれマイナス値が縮小、特に売上額は大幅に縮小し、今期実績比 63.4、41.4 ポイントの上昇見通しとなっている。

予想販売、予想仕入価格判断D I値は、販売価格が 14.6 (今期 12.2) と、今期実績比マイナス値が拡大し2.4 ポイント低下、また、仕入価格は 5.0 (今期 0.1) と、今期実績比プラス値からマイナス値に転じ5.1 ポイント低下し、それぞれ価格低下基調が強まる見通しとなっている。